

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

社会の分断と差別に 想像力と対話で対抗する

『分断と対話の社会学』

—グローバル社会を生きたるための想像力—

塩原良和（法学部教授） 著

慶應義塾大学出版会／2700円（2017年4月）



昨年夏、知的障がい者施設で入所者が殺害されるという悲惨なヘイトクライムが起こった。また在日コリアンに対するヘイトスピーチが社会問題になっている。インターネットの発達により、身勝手な被害者意識を持ち、社会的弱者やマイノリティを排除する行動が目立つ。本書は、グローバル化と新自由主義化が進み、社会が分断される中で、ナシヨナリズムが台頭する社会の実情を分析し、人種や国籍の異なる人々や社会的弱者と共に生きるために、想像力を働かせ積極的に対話をすることの重要性を提起する。ベースになっているのは塩原教授の「社会学」 「社会変動論」の講義ノートである。

教職員執筆の新刊

●井手英策（経済学部教授） 著

『財政から読みとく日本社会—君たちの未来のために—』岩波ジュニア新書

／950円（2017年3月）

●小熊英二（総合政策学部教授） 著

『首相官邸の前で』集英社インターナショナル／2160円（2017年3月）

●蟹江憲史（環境情報学部教授） 編著

『持続可能な開発目標とは何か—2030年へ向けた変革のアジェンダ—』

ミネルヴァ書房／3780円（2017年3月）

●菊澤研宗（商学部教授） 著

『組織の不条理—日本軍の失敗に学ぶ—』中公文庫／778円（2017年3月）

●柳田利夫（文学部教授） 著

『ペルーの和食—やわらかな多文化主義—』慶應義塾大学出版会／756円

（2017年3月）

●金子勝（経済学部教授） ほか著

『ポスト「アベノミクス」の経済学—転換期における異議申し立て—』かも

がわ出版／1836円（2017年6月）

慶應義塾この一冊

『福澤諭吉の『世界国尽』で世界を学ぶ』

—七五調でうたっておぼえる世界の地理と歴史—

齋藤秀彦（横浜初等部教諭） 編著

ミネルヴァ書房／2808円

（2017年4月）



刀を腰に差した人々が往来していた1869（明治2）年、福澤諭吉が子どもたちに世界の地理や歴史を理解させるために著した『世界国尽』は、72年の学制発布後、小学校の教科書に採用された。面白いのは暗唱しやすいように、七五調で書かれていること。「香港は英吉利領の孤島、島にひらきし新みなと」など、調子よく音読できる。意を尽くした現代語訳だけでなく、「福澤が見たアジア（アフリカ）」というように、当時と現代の様子を比較しながら解説している。